

## 平成 28 年度 中国・瀋陽師範大学 短期研修プログラム報告書

北海道教育大学函館校

地域協働専攻

4 年 稲垣美法

私は 2 月 27 日から 3 月 11 日までの約 2 週間、中国の瀋陽師範大学で短期研修に行ってきました。私はこれまでほとんど、中国語の勉強をしたことがありませんでした。一方で、大学の講義等で中国の文化や社会について学ぶ機会が多く、中国文化に興味を持っていたため、私は今回の短期プログラムへの参加を決めました。この報告書では、主に大学での授業と生活の 2 つの項目に分け、文化や生活の違いについても触れながら話を進めていきたいと思います。

### 1. 瀋陽師範大学での授業

瀋陽へ到着した翌日にさっそく中国語のクラス分けテストが実施されました。クラスは A から F の全 6 クラスに分かれています。これまで中国語をほとんど勉強していなかった私は一番下の F クラスを希望していましたが、筆記試験の結果から、E クラスへ配属されました。授業は日本の大学より早い 8 時 20 分から始まり、11 時 50 分に終了します。日本と同様、土日の授業はありません。E クラスの授業内容は、主にピンインと声調の 2 つを習得することでした。この 2 つは中国語を勉強する上での基本になるものです。授業の中では担当の先生が英語を交えながら丁寧に説明をしてくれます。日本語との違いから声調は難しいと感じましたが、授業の中で何度も発音練習をするので、2 週間でも十分コツをつかむことができました。クラスメイトは、韓国、イタリア、ロシア、ケニアなど、様々な国籍で構成されており、計 11 人の少人数規模のクラスでした。授業の最後には必ず宿題が出されます。翌日には宿題の提出と小テスト（単語テスト）が行われ、2 日に一回は、クラスの人とペアになり、覚えたての中国語で会話をする試験もあります。多少難しい内容でも担当の先生に気軽に相談でき、クラスメイトと協力してこなすこともできるので心配はありません。また内容が簡単すぎる場合には、担当の教員に相談をしたうえで好きなクラスに移動して授業を体験することもできます。通常であればこの短期プログラムでは、中国語の授業の他に「中国文化交流」という授業を受講することができます。しかし、今回は私一人のみの参加であったため、開講は予定されていませんでした。私は現地で担当の教員に相談をしたところ、一度だけ受講をすることができました。私は中国の伝統の一つである「捏泥人（粘土）」を体験しました。文化交流は全て中国語で行われるため、聞き取れない部分はありましたが、中国語の授業とはまた違う楽しさを味わうことができました。中国文化を体験しながら他のクラスの学生とも交流をすることができ、非常に充実した時間を過ごすことができました。



E クラスの様子



中国文化交流（捏泥人）の様子

## 2. 瀋陽での生活

私が中国へ行く前、一番に不安だったのが現地での生活でした。実際に 2 週間を振り返ると、日本との違いを感じる場面は多くありました。私が生活をした寮は部屋には冷蔵庫やお風呂、トイレ、勉強机、テレビが備わっており、非常に暮らしやすい環境でした。しかし、全ての留学生が同様なわけではなく、これらの設備がほとんど無い中で生活をしている学生もいました。お風呂にはバスタブが無く、シャワーのみとなりますが、シャワーのお湯が切れるのが早く、私は初日から風邪を引きそうになりました。また中国は日本と異なり、湿気がほとんどないため、体調管理を怠ってはいけません。私は夜寝る際には加湿器の代わりに濡らしたタオルを干していました。また一番に注意が必要なのは、車だと思います。日本の交通事情とは大きく異なり、中国は車優先社会です。信号機や横断歩道もちろんありますが、運転手は歩行者が歩いてもお構いなしです。現地の人動きをよく観察しておくことが早く慣れるためのコツかもしれません。ネットワーク環境についてですが、私は学内や市内観光の際はほとんど Wi-Fi を利用していました。瀋陽市もネットワーク設備は備わっているものの、安全性を考慮するとなかなか使用には気が引けるかと思います。また市内を観光している際には、Wi-Fi が無いと緊急の連絡等を受け取ることができない可能性もあります。そのため、日本で事前に携帯の契約を海外用に変えておくことを私はお勧めします。私は 2 週間、空いている時間のほとんどを市内観光に充てていました。瀋陽市の有名な観光地の一つである故宮や北陵公園に行きましたが、当時の建築技術の高さに驚かされたり日本と類似している部分を見つけたり、新しい発見がたくさんありました。食事については、味付けが濃いと感じる方が多いかもしれませんが、大学内や市内のスーパーマーケットに行き、自分の口に合うものを選ぶこともできるので、問題はないと思います。



大学の近くで食べた餃子



瀋陽故宮

### 3. まとめ

私は中国へ行くまで授業や生活について不安に感じていることがたくさんありました。しかし実際に現地で生活してみると、大きなトラブルも無く、2週間の研修を非常に充実したものにすることができました。そしてこの短期研修の中で、私のこれまでの語学学習に対する考え方は大きく変わり、また国や文化を超えた人間関係も築くことができました。今回の研修の中で、語学学習においては「話す」ということが重要な機能を果たしていると感じました。2週間という短い期間の中でも中国語で自己紹介をできるくらいのスキルを身に付けることができたのは、この「話す」機会をたくさん作ることができたからだと思います。これから留学や短期研修を考えている方はもちろん、大学で語学学習に励んでいる方にも、実際に声に出して外国語を学ぶことをお勧めします。また中国での生活は、私にとって今までにない刺激的な体験になりました。日本で生活しているとなかなか気づくことのできない「当たり前」を改めて考えさせられると同時に、日本と中国のそれぞれの良さを見つけることができます。そして、異なる文化を持った人たちとの出会いは一生の財産になると思います。同じ語学学習を目的とした学生が集まった中で勉強ができたことで、高いモチベーションを保ちながら学習に励むことができました。こうして充実した研修にできたのは、現地の先生方やクラスメイト、日本人の仲間のおかげだと思います。この報告書によって留学や短期研修を少しでも後押しできると幸いです。興味がある方は、ぜひ短期研修に参加してみてください。



帰国前日に行われた送別会の様子